《第5号》***オープンアクセスって何のこと？***

近年、インターネットの普及とともに、図書館まで足を運ぶことなく、自室で論文をリアルタイムで見ることができる時代になりました。多面的な検索で文献検索をし、そのままフルテキストが表示される論文も以前に比べて増えてきています。

オープンアクセスとは、学術論文をインターネット上で無料公開し、自由に利用できるという障壁のないオンラインアクセスを目指しているもので、2000 年頃から学術界で活発化している新しい出版形態です。オープンアクセスが出現した背景には、出版者の寡占化や学術雑誌価格の高騰など、商業出版社が主導権を握る学術コミュニケーションの仕組みを変革しようという志向の高まりがあります。欧米では、大学図書館が中心となって、SPARC(Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)という組織を立ち上げ、研究者自身の手による学術コミュニケーションを作り出すための積極的な活動を展開しており、オープンアクセスの支援も行っています。日本でも 2003 年に SPARC/JAPAN を国立情報学研究所が主体となり組織し、欧米の SPARC とも連携を図りながら、日本での研究成果を日本から発信する手段として、国内欧文学会誌を電子化し、海外での認知度の向上を目指すなどの事業を始めています。オープンアクセスの内容は以下の２つに大別されますが、著作権は著者に帰属し、出版費用は著者の投稿料によるという点が共通の特徴となっています。

１、オープンアクセス誌の創出…掲載論文を無償で利用者に公開するオンラインジャーナルを増やしていくこと。電子版のみとして新しく創刊されたものと、冊子体でも発行されているものを電子化させて無料公開にしたものとに分けられ、この無料公開の方式は、公開時期に制限があるものもあります。

２、セルフ・アーカイビングの普及…著者が論文を個人サーバ、分野別サーバ、または大学図書館等が運営するサーバに蓄積し、それを無償で公開するもの。

このように、今後の図書館の使命は、オープンアクセスの動向を周知し、研究成果をオープンアクセス誌で公開することを支援し、学内研究者のセルフアーカイビングの受け皿になることと認識しています。研究者にもこの動向に関心を持ち、学術情報を有効に活用できる仕組みをつくって頂きたいと願います。オープンアクセス誌を集めたサイト、促進する団体をいくつか紹介します。近々、その他のサイトの紹介を予定しておりますのでご参考ください。

*SPARC　http://www.arl.org/sparc/　*SPARC/Japan　http://www.nii.ac.jp/sparc/
*CreateChange 日本語http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/isc/sparc/create/home.html
・PLos Biology　http://www.publiclibraryofscience.org/
最新の科学・医学情報への制限のないアクセスの実現を求めて、科学者を中心に設立。
・PubMed Central　http://www.pubmedcentral.nih.gov/
米国国立医学図書館が無料公開している生命科学分野の電子ジャーナルのアーカイブ。
・Free Medical Journals.com　http://www.freemedicaljournals.com/
無料公開されている医学雑誌を集めたサイト。公開に限定のあるものも含む。
※メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで

＊＊図書館トリビア＊＊＊

図書館の年に２回の臨時休館、書庫の「大移動」をしています。１年分が揃った雑誌を新着棚から書庫へ入れるスペースを確保しなければなりません。書庫の中を事前に点検し、増え続ける雑誌を限られたスペースに納め、新規購入雑誌や購入中止、サイズが変わって横積みになった雑誌を立て直したりと計画し、３日間に大移動をします。古い年代や、利用頻度が少ないものを選別し、地下書庫へ移動しますが、現在、半分以上はカルテが収納され、使えない状況です。ジャージや T シャツ、スニーカーに軍手、マスク、手には雑巾、首にはタオル?!等、凄まじい姿で書庫の中を行ったり来たり奮闘しております。この時ばかりは興味があっても覗かないでください（^.^;)

今年は今号でおしまいです。来年もよろしくお願いします。

皆様よいお年をお迎えください♪